

第4回 舗装道路際の電気柵は効果なし！

農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 堂山宗一郎氏

前は、イノシシに有効な電気柵を紹介しましたが、シカの場合は少し変わります。シカだけが出る場所では、地面から 30・60・90・120・150cm、シカとイノシシ両方の場合は、地面から 20・40・60・90・120・150cm の高さに柵線を張ることをお勧めします。シカが、どの高さを鼻先で触るか調べたところ、地面から 60cm までの線をよく触ることがわかりました。シカの場合でも柵線の間隔が広がらないように注意してください。

イノシシとシカどちらの場合でも、電気柵はアスファルトなどで舗装された場所の際から離して、土の地面に設置してください。動物に電気ショックを与えるためには、鼻先に入った電気が身体を通り抜けて足先から地面に抜けることが重要です。しかし、足が舗装された場所の上にあると電気が抜けにくく、電気ショックの威力が極端に弱くなります。足先を土の上にするためには、イノシシで柵の外側 40cm 以上、シカで

60cm 以上は土の地面になるように設置してください。

電気柵を夜だけ通電するモードで使うことはお勧めできません。イノシシもシカも夜行性と思われがちですが、実は明るい時間でも活動します。特に人間の気配が弱い、日の出や日の入り前後は彼らがよく活動する時間帯ですが、周囲が明るいことで電気柵のセンサーが働き、電気が流れていない状態になります。上手く設置した電気柵も、動物が触った時に電気が流れていなければ意味がありません。電気柵は常時通電モードで使用しましょう。

